

戦跡めぐりの今年のポイント

坂戸市・坂戸市教育委員会の後援を受け毎年実施してきた「坂戸の戦跡めぐり」は、今年6回目を迎えました。今年ポイントは入西地域の戦跡を重点的にまわることと、見学後、中央公民館学習室で陸軍坂戸飛行場建造の被害者と懇談することです。

軍事都市だった坂戸には、50を超える戦跡が点在します。入西地域にもいくつもの戦跡がありますが、軍事機密のため家族内でも語り合うことがなく、市民はもとより地域住民もほとんど知らない、知られてこなかった戦跡がいくつもあります。

戦争末期の1944年、陸軍坂戸飛行場は米軍の空襲をたびたび受け、兵舎などを消失したため、飛行場の整備部隊（つばめ部隊）は急遽入西地域の学校・寺・神社に避難して兵舎としました。新たな兵舎の建造もされ、飛行機の整備に必要な機械類は入西地域の学校や寺に、飛行機燃料の入ったドラム缶は延焼を避けるため、保管する掩体壕を入西地域の山林内に土堤で造成しました。

また、航空士官学校坂戸飛行場の練習用の飛行機は、たびたび墜落し搭乗員が亡くなっていますが、今回は2カ所をまわる予定です。

今年坂戸市は「坂戸市平和都市宣言」30周年の記念すべき年ですが、市の催しやイベントは一切ありません。坂戸の戦跡めぐりは、宣言の「平和が確立されることを強く願って」実施するもので、多くの市民の参加で成功させていきたいと思っています。（文責 大久保俊秀）

- 日時 10月16日(日曜日)13時30分～17時
- 集合 坂戸中央公民館2階学習室B（解散も）
- 主催 九条の会さかど
- 後援 坂戸市・坂戸市教育委員会
- 参加費 無料
- 申込み 先着20名（049-283-4723 (FAX兼) 栗原）
- 締切り 10月13日(木曜日)

語り継ぐ会の感想から

◆ 鹿児島県の小さな村での戦争体験をお話していただきました。終戦(1944年～1945年)当時、多くの人が空爆、機銃掃射と言う恐ろしい体験をし、食糧難でひもじい思いをしました。「欲しがりません勝つまでは」と教えられ、夢中で生きてきました。

一人ひとりの体験は異なり、違っているかもしれませんが、その小さい体験を語り合い、まとめ上げると、数が多ければ多いほど、戦争が国民の命とくらしを壊し、人生にどんな影響を与えたのか、少しずつ明らかになってくるのではないのでしょうか。

今後も「戦争を語り継ぐ会」が続けられるよう、語る人を見つけましょう。

また、これまで語られてきた「戦争体験」を文集化することも検討しましょう。（石川）

◆ 本日の前菌さんのお話は、私が父から聞いていた話と非常にダブる部分があり驚きましたし、共感も持てました。

私の父は鹿児島県阿久根市出身で、前菌さんの指宿から近いというほどではありませんが遠くはなく、やはり海岸沿いの小さな町という点は共通です。

頻繁に空襲を受けていたこと、機銃掃射を受けたことも同じです。父は、日本の高射砲は米軍の爆撃機には届かないとも言っていました。

米がなくてサツマイモやカボチャばかり食べていたこと、尋常小学校と防空壕の往復だったことなど、これも父の話と共通でした。（平瀬敬久）



◆ 紙芝居の内容は、戦中はどこにでもある話ばかりでしたが、今日はそのひとつひとつに大変感動しま

坂戸の戦跡めぐり

- 日時 10月16日(日曜日)13時30分～17時
- 集合 坂戸中央公民館2階学習室B（解散も）
- 内容 入西地域の戦跡を車に分乗し見学後、飛行場造成の被害者と懇談
- 申込み 先着20名（049-283-4723 (FAX兼) 栗原）

した。特に最後の『コスモス』の絵は心情に合った画風で、語りと完全に一致した最高の紙芝居が鑑賞できました。

更にこれに加えて『ヒロシマの有る国で』の音楽と歌詞を書いた巻紙が趣を添え、感動が倍増されました。「ともるいくさの火種を消すことだろう、消すことだろう」、良い終戦記念日が送られて幸せでした。(川瀬)

- ◆ 前菌さんのお話は、鹿児島出身なので戦争体験をされたことは想像していましたが、やはり大変な思いをされたことが充分うかがえました。(徳升悦子)
- ◆ 「日本は戦争に負けるはずが無い」と教えられていた…、「玉音放送」を聴いた…、それから70年後、「戦争法」が強行された…。
その流れの中での国民の意識がどのように変化してきたのかを解析していきたい。(大山 茂)
- ◆ 前菌さんは、小学3年という時代にあって戦争に関わる大変なことを多く体験されているのに驚きました。鹿児島は沖縄にも近く、戦争が身近だったのですね。まだまだたくさん語っていただきたいです。(新井竹子)
- ◆ 質疑応答の中で前菌さんが、今の世相について語られた「戦争が恐ろしくないことが恐ろしい。また戦争が始まるんじゃないかと思う」という言葉がとても心に残りました。
- ◆ 平和紙芝居に感銘しました。当時のことが目に見えるようでした。また、私ごときの話をご静聴いただき、只ただ感謝しております。ありがとうございました。(前菌成也)

ビナードさんにびっくりぽん

西坂戸 浅井時子

9月11日、ウェスタ川越大ホールで開かれた「九条の会」かわごえ連絡会の「コンサートと講演のつどい」で久しぶりに生の音楽を聴いて、心身ともに生き返ったような気持ちになりました。演奏が終了するまで、胸の鼓動がおさまりませんでした。

いつ聴いても音楽は人間にとって代え難いものですね。バイオリンの響き、フルートやピアノの音色、帰宅しても耳の奥に残っていました。ブラボー！

第2部はアーサー・ビナードさんの講演。お名前は新聞記事などで拝見していたのですが、直接お話を聞くのは初めてでした。

アメリカのミシガン州生まれの49歳。まだまだ若き詩人。絵本やエッセイ集など色々な面で活躍されて著書などもたくさん出版されているよし、日本人の奥さんと日本に住み、日本語も堪能でユーモアあふれる話し方や辛口での批評など、それが心に根付いているのには「びっくりぽん」です。

私が一番感心したのは、日本の現状を広範囲に把握していること。原発・戦争・沖縄の基地やら北方四島のことなど、ありとあらゆることを克明に語り続けて、

時にはユーモアを交えて面白く笑いを招くなど、心豊かなビナードさん。

私が特に忘れられないのは、バックスクリーンに映し出された写真です。

広島に原子爆弾が落とされた時間で止まった時計や中身ごと焼かれたアルマイトの弁当箱や溶けた鉄瓶など、当時のことが多くの資料で映し出され、見ていると話を聞くより涙が出て止まりませんでした。

今また日本は戦前の雰囲気に戻りつつあります。アメリカ人でもビナードさんのように、平和運動に心して活動されていることに拍手を送ります。どうもありがとうございました。

【投稿】人生2回目のヒロシマで(前編)

柴 平瀬敬久

8月4日から6日まで、広島で開催された「原水爆禁止2016年世界大会」に参加してきました。坂戸原水協からの参加要請に、当初「議員1年目で忙しく来年の参加にしたい」、「行くのであれば九州出身なので、長崎での大会に参加したい」といったことを伝えて逃げていましたが、最終的には熱意に根負けしました。

そういった経緯での参加でしたが、結論としては、行って良かったと非常に感謝していますし、カンパをいただいて参加した責任は重大でした。

実は、私にとって、平和記念公園や平和記念資料館を訪れるのは、今回が人生で2回目でした。中学2年生の時に、一度修学旅行で訪れているからです。その前には小学校6年生で長崎の平和記念公園や原爆資料館を訪れていますし、小学4年生の時には学級文庫で漫画『はだしのゲン』を読んでいます。

そして、それらから感じた原爆への恐怖心がトラウマとなっていたのか、仕事の関係で5年間ほど毎月末に広島まで行ってはいたのですが、平和公園にも平和記念資料館にも足を運ばずにいました。

今回、参加スケジュールとしてはかなりハードな日程でした。まず、初日の4日午前中が広島への移動、午後が開会総会への参加、同日夕方が平和記念資料館見学。翌5日は「被爆体験の継承・実相普及と援護連帯」分科会に参加。最終日6日は平和記念式典を見学後、閉会総会に参加という日程でした。

今回の心配は、修学旅行での恐怖の思い出がある平和記念資料館に行けるかどうか…でした。かなりの勇気が要りましたが、どうにか見学に行けました。

今回、自腹での参加であれば行けなかったかもしれませんが、カンパをいただいての参加だったことが“少しも無駄にはできない”と背中を押してくれたのだと思います。(次号に続く)

今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

10月27日、11月24日、12月22日(第4木曜日10時~12時)北坂戸駅東口を背にして、駅前ロータリーの正面左側、北坂戸にぎわいサロン(坂戸市と城西大学との連携)で。